

南海トラフでのプレート境界の地震

・昭和南海地震（1946年12月21日 M8.0）

1946年12月21日に発生した昭和南海地震は、紀伊半島沖から四国沖にかけての領域を震源域とし、規模は安政南海地震より小さい（M8.0）と考えられています。推定震度5以上を観測した範囲は図1のように広く、発生した津波の高さは和歌山県～高知県を中心に沿岸で5m以上に達しました（図2）（図1・図2とも出典：地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」）。

この地震により広島県内では負傷者3名、住家全壊19棟半壊42棟などの被害が生じました（出典：「日本被害地震総覧599-2012」宇佐美ほか,2013）。

この地震の発生から3か月以内に周辺でM6程度の地震が4回発生しました（図3・図4）。

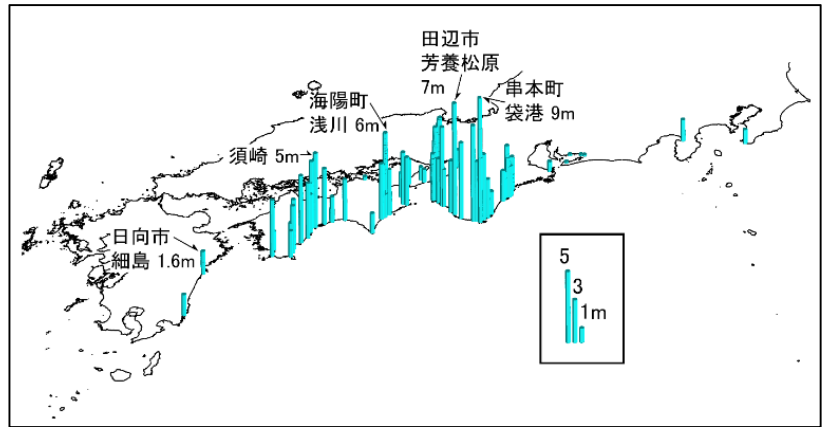
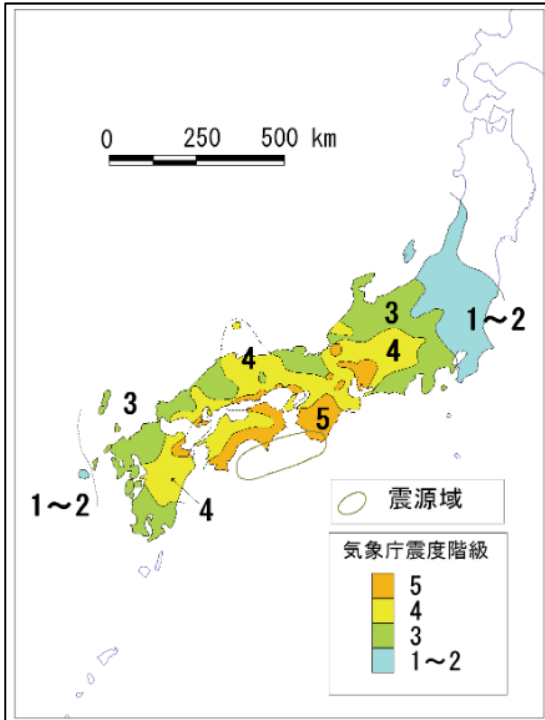


図1 昭和南海地震の推定震度分布図
（地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」より）

図2 昭和南海地震の津波高
（地震調査研究推進本部 「日本の地震活動」より）

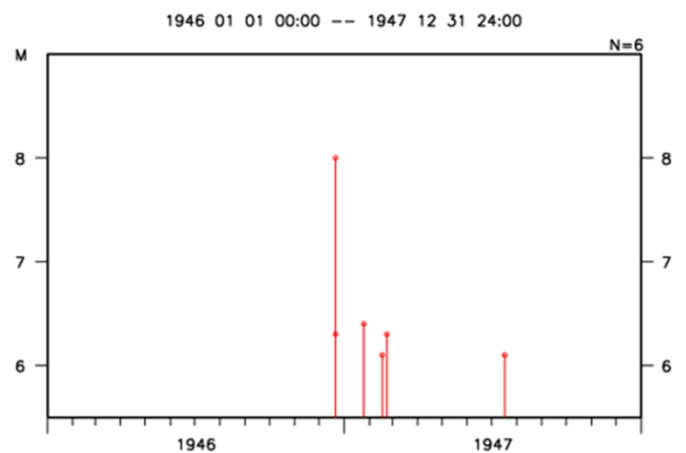
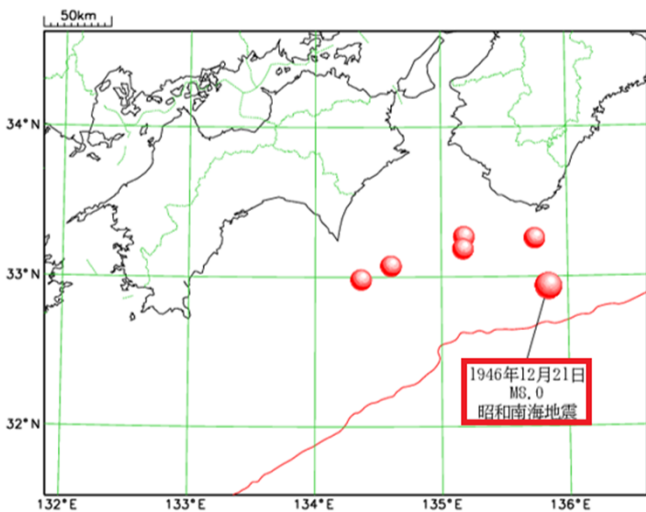


図3 震央分布図
（1946年1月1日～1947年12月31日、M \geq 6.0、深さ \leq 100km）

図4 図3の地震活動経過図
縦軸はマグニチュード 横軸は期間を示す